

パネル展と講演会

テーマ：知っていますか・・・中学校の教科書から消された「慰安婦」のこと

- 📖 ・戦争の傷跡というのは、見えない傷がどんなに深いことでしょう。
- ・「慰安婦」は朝鮮半島だけでなく中国・フィリピン・インドネシア・マレーシアなどから大勢名乗り出てきています。
 - ・韓国・北朝鮮の場合、永年儒教が国教とされ男尊女卑の徹底した長幼序列の社会であったため、日本軍の「慰安婦」にされた戦争犠牲者なのに蔑視されてきました。戦後50年以上もこうした女性たちの人生が歴史の闇の中に埋もれ、罪人のようにして生きなければならなかった辛さがあったことを、日本人として知っておかねばならないと思います。
 - ・未だ日本軍の「慰安婦」制度がきちんと裁かれていないことも問題です。謝罪されたからといって納まらないだろう女としての痛みは共有できます。
 - ・そこから戦争で踏みにじられてきた「人権」を学び、今後、世界中普遍であり他者の尊厳を侵してはならない「人権」を大切に守っていかねばと思います。

展示 とき：2011年8月15日(月)～21日(日)
ところ：エル・パーク 5階 展示スペース

講演 とき：2011年8月21日(日) 13時30分～15時30分
ところ：エル・パーク 5階 セミナーホール
講師：中原 道子氏 (パウネットジャパン共同代表)
参加費：500円

主催：宮城女性九条の会(仙台市青葉区上杉2-1-10 仙台YWCA会館内)

連絡先：☎022-248-3718(一戸) ㊟271-8087(岡)

《講師プロフィール》

早稲田大学に35年間勤務。東南アジア史、ことに日本軍政期の英領マラヤに関心があります。

2000年の「日本軍性奴隷制を裁く女性国際戦犯法廷」開催のために組織されたVAWW NET JAPANの創立以来のメンバー。

韓国の女性たちと共同で「ジェンダーの視点からみた日韓近現代史」(梨の舎)を日韓で出版。

沖縄の宮古島の「慰安所」を日韓共同で調査し、「慰安婦」にされた女性を祈念するための碑「女たちへ」を建て、共同調査報告書として、「十二の言葉が刻む戦場の宮古島と慰安所」(なんよう文庫)を出版した。

日本軍性奴隷制問題解決のためなら世界中どこにでも行く。

展示パネルの一例

「慰安婦」制度の被害と実態 —アジア各地の被害女性たちの証言—

日本軍「慰安婦」制度の実態は、文書資料だけで分かるものではありません。しばしば、「強制連行を示す証拠がない」「被害者の証言には証拠がない」などという声が聞こえてきますが、そもそも「強制連行をしる」などという文書が作られたはずがありません。女性たちがどのように連行され、慰安所でどのような境遇にあったのかを語るができるのは、「慰安婦」を強いられた女性たち自身です。

90年代になり、多くの被害女性たちが沈黙を破り「尊厳の回復」を求めて立ち上がりました。日本政府に謝罪・補償を求めて提訴した裁判もその一つです。日本政府は「女性のためのアジア平和国民基金」を設立して事業を推し進めましたが、多くの女性たちが「償い金」の受け取りを拒否しました。女性たちが求めている「尊厳の回復」とは何でしょう。

ここに展示したパネルは、慰安所での体験だけでなく、「慰安婦」を強いられた女性たちのそれぞれの人生を綴っています。
一人一人の女性に出会ってください。
一人一人の人生に向き合ってください。
その中できっと、女性たちが求めている「人間の尊厳」とは何かが見えてくるのではないかと思います。

Q

どのような女性たちが、 どこへ連れていかれたのですか？

植民地（朝鮮・台湾）の女性たち

日本の植民地だった朝鮮と台湾では、若く健康で性病にかかっていない女性たちがターゲットになりました。多くは農村の貧しい家庭の娘で、学校に行くこともできなかった未成年で未婚の女性たちです。彼女たちは日中戦争の頃は、日本軍が駐屯する中国各地の慰安所に、太平洋戦争が始まると、東南アジアの各地に作られた慰安所に連れて行かれました。

朝鮮人「慰安婦」が連行された慰安所の所在地（2006年3月現在）
出典：被害者・元日本兵の証言、戦記、軍関係資料、公文書など
地図作成：野木香里、西野瑠美子
元データ作成：池田恵理子、松本真紀子

占領地（中国や東南アジア地域）の女性たち



東ティモールで各地の「慰安所」に入れられた女性たち。2006年1月、初めて東ティモールで開かれた「慰安婦」公聴会で証言した。昼間は強制労働、夜には兵士の相手を強いられた女性たちが多い。

太平洋戦争に突入しなくなると、フィリピン、バヌア・ニューギニアが拉致されたり、Eにより、地元の慰安所に収容されていた若い女性だけでした。また、中抗日派の女性拷問や輪かんあった女性か